

労働環境を大幅改善、雇用促進

遮熱シート&エリア空調機で最大10度低下

五十鈴グループ（本社・東京都千代田区、社長・鈴木勝氏）は2024年度にコイルセンター事業を展開するスチールサービス部門の全8サービスセンター（SC）に遮熱シートを設置した。近年は気候変動による夏場の猛暑でSCの現場では過酷な労働環境となっており、同グループが進める「協進の森」活動、働きやすさを重視したサステナブルな職場環境の改善・整備により、SCの労働環境は大幅に改善した。

は、2基のレベラーインのパイラー近辺。両サイドをレベラーインに挟まれた場所は機械熱がこもる上、パイラーから流れてくる鋼板製品の取り扱い作業で1日に200回程度の反復動作を行い、

空調機がなかった同エリアの温度は夏場40度を超えることが多かったが、設置後は30度台と10度近く低下。工場内では最も温度が低く、快適なエリアへと生まれ変わった。実際にパイラーエリアで働くスタッフは

「レベラーのライン速度を下げないように早く作業する必要があり、他のエリアに比べて動き回ることが多い。去年までは40度を超える中で汗も多かったです。作業環境は非常に良くなった」と快適さを実感する。

の採用促進につながった。五十鈴グループが23年度から取り組みを進める「サステナビリティ推進体制」における重要テーマの「働きやすい職場環境」は、着実にグループ内のSC現場で広がっている。

五十鈴関東（栃木県小山市、社長・太田博英氏）の太田SC（群馬県邑楽郡、SC長・栗原和宏氏）は北関東の中でも有数の暑い地域に位置し、夏場の最高気温は36度以上、アスファルト上の日なたは40度超えとなる日が少なくない。

太田SCでは6月中旬までに工場棟（5115平方メートル）の屋根全



太田SCの屋根全面に設置した遮熱シート

空調機については、現場スタッフが作業するエリアを集中的に冷却するため、冷風の流れを最大限に活用する場所が多く設置。作業者が常駐しない仕掛品置き場や出荷待ちの製品置き場、コイルヤードは台数を抑えた。

太田SCの中で特に一番暑かったエリア



全11基を設置したエリア空調機

作業者の歩数は1日で3万歩を超えることも多い。

このパイラーエリアには3方向にエリア空調機を設置し、重点的に冷たい空気だまりができるように空調を設計した。遮熱シートと

